

INMP 通信 No. 17

2016年12月



国立アフリカ系アメリカ人歴史・文化博物館：ワシントンD.C.

国立アフリカ系アメリカ人歴史・文化博物館が、2016年9月にアメリカの首都で開館しました。それは人気のあるナショナルモールに建設されましたが、世界最大の総合博物館のスミソニアンに加えられました。2003年に公認されましたが、1960年代の公民権運動の闘士であったジョン・ルイス下院議員による15年もの運動が実を結んだものです。しかしこのような博物館の考えは、百年前にすでにありました。開館式ではルイス、バラック・オバマ大統領、ロニー・バンチ館長たちが、7000人以上のゲストの前で演説をしました。

その博物館は地上5階、地下5階の10階あり、約37,000の展示品があります。その目的は、アメリカの過去のありのままの真実を示し、現在の勝利を祝福しながら歴史を記念し、人々の教育をすることです。訪問者は奴隷制から公民権運動、そして今日の黒人問題、その間の出来事に関する展示を見て歩くようになっています。よく知られている物語やそうでない物語が、重要な展示物を通して語られています。350席

ある劇場は、オプラー・ウィンフリーと名付けられています。彼女は博物館の建設費として2100万ドルの最大の寄付をしたからです。警官が黒人の男性を射殺するというひどい事件がいくつか起きて人種関係が緊張していた時に、その博物館が開館したので、ワシントンD.C.では開館の祝福は最も重要なニュースとなりました。開館式のスピーチは、ここ [here](#) で読むことができます。学芸員のミッシェル・ウィキンソンさんは、印象的な建物が象徴するものや、博物館の歴史や目的をフェイスブックで説明しています。

[this Facebook page.](#)



国立アフリカ系アメリカ人歴史・
文化博物館



国立アフリカ系アメリカ人歴史・文化博物館の館内

奴隷から大量投獄までの歴史に関する博物館：アラバマ州モントゴメリーに開館予定

上記の国立アフリカ系アメリカ人歴史・文化博物館の開館の少し前に、リンチの犠牲者に関するアメリカで最初の国立記念館が、奴隷から大量投獄までのアフリカ系アメリカ人の歴史を探求する前記博物館と共に、2017年アラバマ州モントゴメリーに開館するという発表がありました。その博物館と共に、巨大な平和・正義記念碑に1877年から1950年の間に黒人がリンチされた800以上の郡の4000人以上のリンチ被害者の名前が刻まれる予定です。今日では人種的テロリズムと言われていますが、それによって何百万人も黒人が20世紀の前半に南部から逃げ、アメリカ北部と西部の都市に大規模な黒人地域社会が作られました。その印象的な記念館の性質や目的を説明する、生き生きと昔を再現した3分間ビデオは、他のいくつかの効果的で教育的な短いビデオと共に、ここで見ることができます。[here](#) またアメリカ南部連合で奴隷制を保持しようとした多くの記念

碑に対して、ここには南部で行なわれたリンチの場所がわかる記念碑が作られています。4月に開館する予定の博物館は、元の奴隷の収容施設にあり、以前奴隷の競売が行われた所と、何万人もの奴隷にされた人々が不正に取引された列車の駅や川の船着場の間にあります。そこにはアメリカで最大のリンチに関する総合的な収集物があり、このような歴史と黒人の大量投獄、警官の暴力、間違った有罪判決のような現代の問題を結び付けることができます。このことは博物館の名前である

「奴隷から大量投獄まで」によって暗示されています。その記念碑と博物館は、2015年に「アメリカにおけるリンチ」という革新的な報告をしたモントゴメリーの公民権組織である「平等・正義イニシアティブ」のプロジェクトです。その報告書は、アメリカの人種差別の歴史の一部となった恐怖の規模を表していました。



国立リンチ記念館の芸術家のイメージ

同じような歴史が、2012年ミシガン州ビッグラピズにあるフェリス州立大学の図書館に開館したジム・クロウ博物館（人種差別を記録）にも示され、目の覚めるようなぞっとする内容の資料も含めて展示されています。そこにはアメリカ最大の収集物（1万点を超える展示物）があり、紋切り型のイメージでアフリカ系アメリカ人を描いたものや、時には彼らに対する暴力を美

化したものもあります。ある展示物は百年前のものであり、また他の展示物は悲しいかなバラク・オバマ大統領に関する資料のような現代のもので。その博物館の創設者で学芸員でもあるデイヴィッド・ピルグリム氏は、10代の頃からそれらの収集を始めました。彼がその大学で社会学の教授になり、その収集物を寄贈しました。彼はその刺激的な展示の理由として、「不寛容を示す資料は、寛容の重要性を教えるのに使うことができる」と説明しています。展示物の中には、人をぶら下げるのに使われたリンチ用の綱が設えられた木のレプリカ（実物大）があります。ピルグリム氏は、ニューヨークタイムズのロウガン・ジャッフェによる1分のビデオ「人種差別主義者が使ったもの：痛ましい過去は今日にも」で、様々な物やコメントを載せています。詳細を知りたい方は、この HP をご覧下さい。 [this website](#).



2015年12月アラバマ州ブライトン：
歴史的リンチに関する記念碑

ローザ・パークスのデトロイトの家が ベルリンで保存・再現される

1955年アラバマ州モンテゴメリーのバスでローザ・パークスさんが白人の男性に席を譲るのを拒否しましたが、その結果黒人のバスのボイコットが始まり、アメリカにおける人種差別は違

法となりました。殺人の脅迫があったため、彼女は1957年にアラバマを去ってデトロイトに移住し、2009年に亡くなるまでそこで暮らしました。1960年代まで住んだサウスディーコン通りにある最初の家は最近遺棄され、デトロイトにある荒廃した何千戸もの家と共に、解体の予定でした。その後彼女の姪であるリア・マコーリーが、その家を保存するために買い戻しました。そのための十分な資金を集めることができなかった彼女は、ニューヨークのライアン・メンドザという芸術家のところへ行きました。9月にその家が解体される前に、彼は建物の正面部を含む大きな部分を取り除き、船のコンテナへ入れてドイツへ送りました。現在彼が住んでいるベルリンのウェディング地区のスタジオに、地味ですが歴史的な住宅を再建しています。アメリカ国立記念建造物として見なされるべきものの保存を拒否したアメリカの国外で、その家は最も良く管理できるだろうとモンドザさんは考えています。彼は母国であるアメリカからその家を動かしたことを後悔し、次のように述べました。「ローザ・パークスが住んだ家から壁や、彼女が開けたり閉めたりした戸、彼女が歩いた床を取り外して気がとがめます。…しかしヨーロッパでその家がすっかり再建され、いつかその尊厳が取り戻されてその家がアメリカの戻されることを願っています。」とその芸術家は、再現された建物をヨーロッパのギャラリーや博物館で展示する予定です。そしてアメリカで無視されたアフリカ系アメリカ人の存在について関心を高め、アメリカが失ったものが認識され、その家が喜んで迎え入れられるようになることを願っています。



ベルリンで一部再建する前の
ローザ・パークスのデトロイトの家

メンドザのプロジェクトの教育的影響については、リア・マコーリーが提案しました。彼女は欧米の若者がその家を見て小柄な女性の生涯にわたる正義のための闘いに鼓舞されることを願っています。

2月にはワシントンD.C.にある議会図書館で、ローザ・パークス関係書類をデジタル化し、オンラインで文書や写真に無料アクセスできると発表がありました。その中にはモントゴメリーにおけるバスのボイコットの思い出やマーティン・ルーサー・キングとの文通も含まれています。その収集物には、約7500点の原稿と2500枚の写真があります。ローザ・パークスの抵抗した行為の60周年記念に作られた写真の美しいコラージュは、このHPで見ることができます。

[website.](#)



アメリカの切手に載ったローザ・パークス

第一次世界大戦と第二次世界大戦 への抵抗：ジャネット・ランキンの ユニークな記録

2016年12月7日は、日本軍がパールハーバーでアメリカ艦隊を攻撃し、第二次世界大戦にアメリカが関わるようになった日の75周年記念日になりました。この機会にワシントンポストでは、「75年前に日本との戦争に反対した唯一のアメリカの政治家は、この素晴らしい女性」と題したイシャアン・サルアの記事を載せて、読者がジャネット・ランキン(1880-1973)に注目するようにしました。(2016年10月8日)

モンタナの共和政論者で生涯平和主義者であった彼女は、1916年11月にアメリカの議員として選出されましたが、それは国政レベルで女性の参政権が認められる前でした(女性の参政権は4年後に実現しましたが)。1917年4月に彼女が就任の宣誓をしたとき、彼女は最初の女性議員でした。それまでは約7000人の下院議員や上院議員がいましたが、すべて男性でした。今日では300人以上の女性議員が彼女の歩みに続いています。彼女が就任した最初の月に、ウッドロー・ウィルソン大統領が第一次世界大戦への突入を求めましたが、彼女はそれに反対した50人の議員の一人でした。しかし、1941年12月8日、日本に対する戦争に反対した唯一の議員であったため、多くの人々の敵意や罵りで苦しみました。このように彼女は、アメリカが両世界大戦に参加することに反対した唯一の議員でした。百年前のランキンの歴史的な選挙は、アメリカ下院外交史局(Office of the Historian)や芸術・文書局が、彼女や議会における百年間の女性議員に関する大規模な資料についての素晴ら

しいウェブサイトを立ち上げて祝福されています。その中にはランキンに焦点を当てた4つの短い歴史的な映像があり、ここで見るすることができます。[here](#). 下の絵の中でランキンは1917年の宣誓就任式が第一面に載ったワシントンポストを持っています。1968年彼女が87歳の時、首都でベトナム戦争に反対した数千人の女性の行進の先頭を歩きました。彼女たちは自分たちをジャネット・ランキン旅団と呼んでいました。



シャロン・スプラングによるジャネット・ランキンの絵画(2004)
(米議会コレクション)



メアリー・バーミヤー・オブライエンのランキンの伝記日本語版(2004)
安齋育郎編集

思索家の宿舎の訪問：カナダのノヴァスコシアのバグウオッシュ

国際クロスカレンツ研究所（米国オハイオ州シドニー：デイトン国際平和博物館名誉理事ウィリアム・ショー

9月に私は妻とカナダのノヴァスコシアを訪問する機会がありました。バグウオッシュはノーサンバーランド海峡の岸边にある人口1000人に満たない小さな村です。私たちが到着した時に、「バグウオッシュ会議」や「1995年ノーベル平和賞受賞」を知らせるような標識は何もありませんでした。少しその場所について尋ねて、私たちは最初にバグウオッシュ会議が開催され、カナダの国立で歴史的場所である「思索家の宿舎」を見つけました。その環境は美しく、その村は、有名なアメリカの実業家で重要な慈善家であるサイラス・イートン氏の出生地です。イートンに敬意を表して、思索家の宿舎の近くに「平和」公園があります。そこには金属製の多くの標識があり、彼や平和問題に関しておもしろい情報が書かれています。イートンは大人になってほとんどの時間をアメリカのオハイオ州クリーヴランドで過ごしましたが、夏の休暇にはバグウオッシュに戻りました。私たちは思索家の宿舎のマネージャーで、バグウオッシュで育った地元の教員であるテレサ・キワチュクさんに出会いました。彼女はバグウオッシュ会議の長い歴史に関するたくさんのお話をしてくれました。

1955年アルバート・アインシュタインとバートランド・ラッセルは、核兵器に関する懸念について非政府レベルでの対話をするために、世界のトップレベルの科学者に集まるように呼びか

けました。彼らは「ラッセル・アインシュタイン宣言」として知られている共同声明を出しました。アインシュタインは亡くなる数日前に署名しましたが、それは国際会議の開催を求めています。イートンはその声明について知り、ラッセルにパグウオッシュで会議を主催する費用を提供すると伝えました。これがパグウオッシュ会議の始まりで、1957年7月に思索家の宿舎で開催され、世界のトップレベルの科学者が22名集まりました。その会議はサイラス・イートンによって資金が提供され、バートランド・ラッセルの同僚のジョセフ・ロートブラットによって主催されました。

パグウオッシュ村と有名な思索家の宿舎を訪問し、「生きた」平和博物館の「生きた」歴史を経験する良い機会になりました。その宿舎は2011年に完全に復元され、訪問者はそこを歩くことができます。そこは定期的に会議に使われています。その村で最近開催されたパグウオッシュ会議は、2012年です。もともとの会議以降、世界中で400以上もの会議が開催されています。1995年には科学と国際問題に関するパグウオッシュ会議とジョセフ・ロートブラットに、ノーベル平和賞が授与されました。

ノーベル平和賞のメダルは、思索家の宿舎に展示されています。その目的は、「世界の指導者が核兵器を世界から取り除く努力を強化するように励ます」ことです。このような使命は、1957年よりも今日の方がもっと重大です。その宿舎には多くの小さな展示物があり、展示場所がないために地下室にもいくつか置かれています。私たちは素晴らしいものを手に取ってさわることができました。宇宙へ最初に行っ

たユリ・ガガーリンは、彼が世界で行きたい所へ旅行する機会を与えられました。彼はパグウオッシュを選んだのです！彼に敬意を表してパレードが行われ、地元の人々のためにプログラムが作られました。テレサはファイルを開き、彼の名前と写真、そして署名のあるオリジナルのプログラムを出して下さいました。私たちは長年ファイルに隠されていた歴史の一部に触れたのです。



日本における平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会の開催

平和のための博物館・市民ネットワーク通信ミューズ編集委員 山根和代

平和のための博物館・市民ネットワークの全国交流会が、2016年10月29-30日に福島県白河市にあるアウシュビッツ平和博物館で開催されました。60名の参加者があり、様々な平和博物館の活動について報告がありました。浅川保さん（山梨平和ミュージアム）、芹沢昇雄さん（中帰連平和記念館）、松村高夫さん（中帰連平和記念館）、寺沢秀文さん（満蒙開拓平和記念館）、池田恵理子さん（wamの活動報告）、関谷興仁さんと石川逸子さん（益子・

関谷興仁陶板彫刻美術館)、小寺美和さん(原爆の凶丸木美術館)、蓮沼佑助さん(第五福竜丸展示館)、増川雅一さん(長崎のピースミュージアム)の報告がありました。

特別報告として「〈歴史を逆なでする〉博物館のこれまでとこれから」—3・11後の状況をふまえて—と題して君塚仁彦さん(東京学芸大学教育学部教授、博物館学・歴史学専攻)に講演していただきました。また「アウシュビッツ平和博物館の実践の軌跡」と題して栗山究さん(法政大学等非常勤講師)と萩原達也さん(東京大学大学院教育学研究科)のお二人の報告がありました。安斎育郎教授と共に、私はベルファストにおける国際平和博物館会議について報告しました。現在のところ日本から25名が参加の予定です。

平和博物館が直面している重大な問題は、言論の自由への脅威があることです。例えばWAM館長の池田恵理子氏は、「従軍慰安婦」問題を認めない国粋主義者から脅迫状を受け取っているという報告がありました。他方では関谷興仁さんと石川逸子さん(益子・関谷興仁陶板彫刻美術館)、吉岡志朗さんの報告を聞きました。関谷氏は芸術作品を通して被爆者、第二次世界大戦中強制労働をさせられた中国人、チェルノブイリ原発事故の被害者などの声なき声を作品で表現されています。その博物館では、石川さんの詩の展示もしています。

夕食懇親会には50人近くの方が参加され、博物館やセンターの方々の手作りの美味しい料理をいただきました。

※この最後の3行は英語版では文字数の関係で省略されています(編集者)



朝露館の関谷氏と石川氏

会議は同博物館敷地内に2013年に建設された原発災害情報センターで開催されました。参加者はその展示も見学しました。

会議では総会が開かれ、参加者は様々な問題について討議しました。事務局を引き受ける方がいなかったため、ピースあいちが次の会議まで事務局を担当することが決定されました。次の全国交流会は、2017年に国際平和ミュージアムで開催の予定です。

関谷氏の作品はこのHPで見ることができます。[this website](#).



福島県のアウシュビッツ平和博物館の一部

展示や博物館における 写真の役割について

オランダ戦争・ホココースト・大虐殺
研究所 エリック・ソーメルズ
(NIOD)：アムステルダム

INMPの目的のひとつは、平和のために活動している博物館とこの分野で活発な学術組織との協力を推進し、様々な考えや意見の交流を活気づけることです。このような背景の下でINMPの中で最も魅力的で影響力のある博物館のひとつである立命館大学国際平和ミュージアムによって、私は6月に日本の古都で二つ講演をするように招待されました。この招待は名誉なことで、私は大変喜んで引き受けました。アムステルダムのオランダ戦争・ホココースト・大虐殺研究所(NIOD: INMPのメンバー)の研究者として、過去の記憶や博物館における過去の展示に関して研究をしています。その中の一つに視覚的表現、特に写真があります。よく知られているように、視覚化は今日の社会でますます重要になっています。

講演の際、立命館大学では2016年世界報道写真展を開催していて、私はその展示との関連について話すように依頼されました。従って私の報告は、第二次世界大戦の記憶と、写真を通していかに未来の世代に伝えるのかに関するものとなりました。私は日本の学者、学生、幅広い聴衆者と、記憶、その表現、平和のための博物館における展示などに関する洞察や考えを分かち合いました。ここで重要なことは、この過去が今日意味することです。記憶に関して流動的で多様な考えがあり、第二次世界大戦のような話は特に道徳的評

価基準と関係し、この歴史は今この現在と間接的には将来に意味を与えることとなります。

従って私は、今日の出来事との関連をはっきりさせました。つまりなぜ最近のある写真に私が注目したかです。聖像のような写真に最近付け加えられたのですが、シリアを破壊する戦争から逃れようとして地中海で溺れたシリアの子どもであるアラン・クルディちゃんの写真です。その写真はトルコのドガンニュースエイジャンシーのニルフェル・デミルという写真家によって撮られました。この印象的でショッキングな画像は、ヨーロッパの国境を難民に開放する政治的闘いの焦点となりました。シリアだけでなく、中東、アジア、アフリカの他の国からの難民も含まれます。同時にその写真は長年そっぽを向いていた西洋の罪の意識の象徴となりました。しかしこの写真が人々の態度を変えることになったのか、それがある種の「ゲームチェンジャー」（世論の動向を大きく変える人物や出来事）なのかは、将来になってみないとわかりません。しかしこの写真は疑いもなく人々の感情を強く刺激し、国際的に人類の記憶に残ることでしょう。



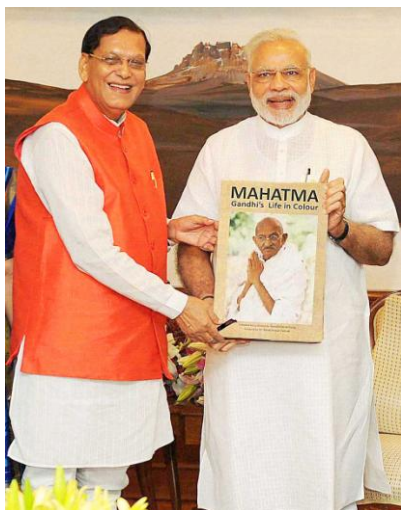
国際平和ミュージアムにおけるエリック・ソーメルズ氏と日本の研究者

私の報告では、個人の写真、自伝的な記録、望ましい画像の創造とそうで

ないもの、写真と政治的記憶、写真と真実の発見、聖像のような写真の創造、そしてもちろん展示や博物館における表現での写真の使用について話しました。講演会やシンポジウムには多くの人々が参加し、興味深い質問が出され討論が行われました。特に6月11日には数名の学者がパネリストとなり、様々な考えや意見が活発に出され、当初の企画意図が実現されました。

ガンジーに関する新しい写真展と「記念碑的」写真集

10月2日インドのシリ・ナレンドラ・モディ首相に、ガンジーに関する新しく真に記念碑的な写真集である『マハトマ：カラーで見るガンジーの人生』が贈られました。その本は3日後にニューデリーのインド憲法クラブで正式に刊行されました。690ページこの本はこれまで他の出版物ができなかったような内容で、ガンジーを生き返らせたような写真が約1300枚紹介されています。



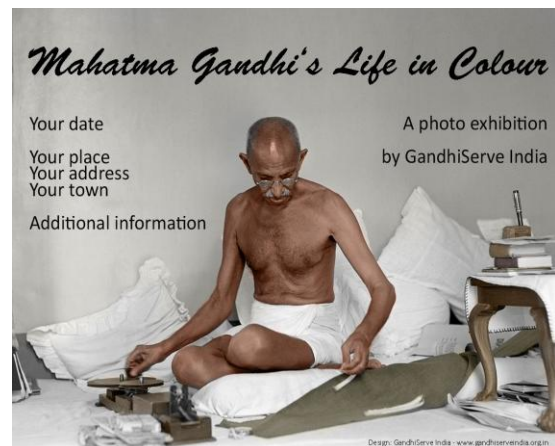
本を受け取るインドのナレンドラ・モディ首相

これまで見たことのない写真は、幅広い情報源から30年以上にわたって集められたものです。その素晴らしい出版は、ガンジー研究者、歴史家に加え、歴史的背景を考慮しつつモノクロ写真をカラー写真にした写真家とグラフィックデザイナーを巻き込んだ、野心的で学際的なプロジェクトの結果可能になったものです。その本はまた詳しいガンジーの自伝や多くの引用を含んでいます。大量の実例や短いビデオは、このウェブサイトで見ることができます。 [website](#).

その本の出版と同時に、100枚のカラー写真からなる移動展示物が作られました。それらは年代順にガンジーの人生や努力を引用文と共に提供しています。展示の写真はこのウェブサイト [this website](#) やフェイスブックで見ることができます。 [this link](#)

ガンジー・サーブ・インディアによって編集・出版されたその本の重さは7 kgもあり、価格は7000 ルピー（125 ユーロ、140ドル ※注：2017年1月現在の為替レートで、日本円で約16,000円）です。詳細はこのウェブサイト [this website](#) をご覧になり、メールを送って下さい。

email [here](#).



ハーグにおける化学兵器禁止機関 会議：テヘラン平和博物館

テヘラン平和博物館と化学兵器被害者支援協会の代表は、最近ハーグで開催された第21回化学兵器禁止条約国際会議に参加しました。その条約は1993年に署名され、1997年に発効しました。化学兵器禁止機関はハーグに本部がありますが、その条約の条項で決められたことを実行し、化学が平和のためにだけ使われ、化学兵器のない世界をもたらすために作られました。テヘラン平和博物館国際交流担当のエラヘ・プーヤンデーさんは、11月30日の本会議で挨拶をしました。また化学兵器犠牲者で生存者、そしてテヘラン平和博物館の創始者の一人であるハミド・サレヒ博士による化学兵器使用に反対する情熱的なメッセージの翻訳もしました。



委員たちに話すエラヘ・プーヤンデー

その国際会議で、テヘラン平和博物館のボランティアや芸術家によって作られたフォトモンタージュを展示する機会がありました。作品の概念はミアド・ラシェディファーさんが担当し、写真はベーナズ・ニッカハーさんが担当しました。化学兵器の犠牲者（1987年のサルダシト、そして1988年ハラブジャにおける犠牲者）とインタビュー

をする中で、その芸術家たちは鼓舞され、美しくカラフルな平和の芸術作品に女性や母親たちの献身的な介護と偉大な強さを表現しました。

会議の代表者から多くの肯定的な反応があった展示物は、移動展示物として手に入れることができます。二人の芸術家はまたINMP事務局を訪問し、事務局代表のペトラ・ケプラーさん、ボランティアの橋本典子さん、そしてルース・マラガさんに歓迎されました。詳細はミアド・ラシェディファーさんのメール [this email address](#) か、ペトラ・ケプラーさんにご連絡下さい。
[here.](#)



ハーグのINMP事務所で。左から、ペトラ・ケップラー、橋本典子、ベーナズ・ニッカハー、ミアド・ラシェディファー、ルース・マラガの皆さん



展示におけるミアド・ラシェディファーによるフォトモンタージュ

ハーグにおけるピースポスター展

毎年ハーグにおける国際平和デーにハーグ市も積極的に関わり、多くの様々なイベントでこの日は祝福されます。ハーグ市は「平和と正義の国際都市」らしい取り組みを行ないました。そして同時に、2016年の正義・平和祭が9月21-25日に開かれました。開会日には「平和ポスターの平和」と題した平和ポスターの展示がされました。それはハーグ市の中心部にあるスプイ駅のポスターギャラリーで、数週間にわたって多くのポスターが展示されました。そのギャラリーでは毎年4~6回展示が行われ、合計100メートルの長さの垂直のガラスケースがあります。そこでは65枚の大きなポスターを美しく輝く額に入れて吊り下げることができます。そのギャラリーは毎日朝から夜遅くまで開いており、自由に出入りすることができます。その場所は賑やかな交通の中心地にあり、多くの人々が展示を楽しむことができるようにしていますが、展示は、彼らが急いで旅行をしていないと想定しています！ポスターは主として平和宮の図書館の収集物です。



平和の散歩道と バーチャルリアリティー平和博物館

カリフォルニアの芸術家、デザイナー、そして彫刻家のポール・フェリッ

クス・モンテズは、至る所にある戦争記念碑が人々を見下ろしているような場所の景観を変えるために、大規模で想像力に富む2つのプロジェクトを立ち上げました。2015年11月にオンラインで始められた平和の散歩道は、国連と13人のノーベル平和賞受賞者によって支持されています。それは「世界平和のために最も影響力のある記念碑」、また「21世紀の世界最大のスマート技術による平和記念碑」と呼ばれています。その考えでは、世界中の100か所の都市や町や園やキャンパスに、1マイルの長さの平和のアート記念碑を設置するのです。各記念碑には、250の異なったブロンズの飾り板があり、私たちの人生を永久に変えた重要なピースメーカーの勇気と献身的行為を称えます。無料のアプリは拡張現実（AR: コンピューターで生成したデータを実写映像に重ね合わせる技法）と仮想現実（VR: コンピューターを用いて人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのように感じさせること）を使っています。そしてそれぞれのピースメーカーの充実した伝記を提供し、さらに世界中の他の記念碑の別の人とながって話すことができます。

VR(仮想現実)平和博物館は、平和の散歩道のプロジェクトを拡張したものです。それによってどんな年齢の人も人類の歴史を良い方向に変えた主要な出来事を知り、世界のピースメーカーの人生体験に応答することができます。このようにして、全地球的な活気のある平和博物館が、オンライン上で、私たちが人間性として共有している平和のヒーローたちの物語によって構成されます。同時にそこではピースメーカーになるために必要で基本的なことを教えています。プロジェクトのパート

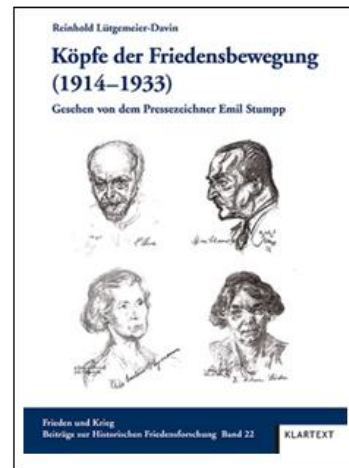
ナーとして、次の団体があります。スイスV & AR協会、アメリカ仮想世界協会、アメリカの [Billion Acts of Peace](#) と [Peace First](#) という団体です。最後の二つの非営利団体は、世界中の若者が影響力のあるピースメーカーになる手助けをしています。モンテズは「無数の平和行動」(Billion Acts for Peace)という団体の国際平和賞を受賞後、9月の国際平和デーにニューヨーク市の国連で講演するよう依頼されました。彼はまた先を見越して「平和をつくる」という活動のシンボルも創造しました。平和の散歩道やVR平和博物館の詳細は、次のウェブサイトで見ることができます。 [peacewalk website](#), the [virtual reality peace museum](#), あるいは [the virtual reality reporter](#).



「平和をつくる」 率先活動のシンボル

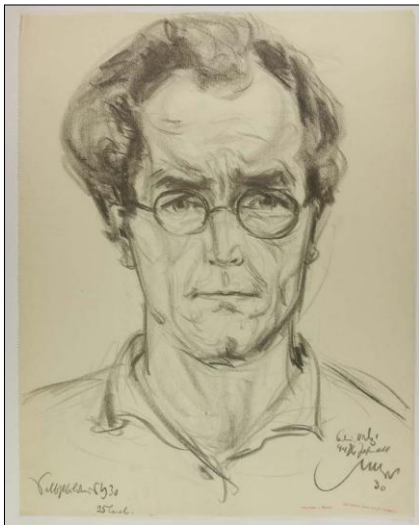
最近の出版物

1914年から1933年間のドイツやその他のヨーロッパ諸国における平和運動の指導的人物は、エミル・スタンプ(1886-1941)のデッサンや石版画で、不朽の名声を与えられました。彼の生きた時代に主要なドイツの新聞やその他の出版物の有名な挿絵画家として、彼の絵は軍国主義、国家主義、ファシズムに代わる国際平和主義ネットワークを視覚的に表現しました。ナチスは彼の作品を禁止し、彼は後に逮捕され監獄で亡くなりました。ドイツの平和歴史家のラインホルド・ルエトゲマイエル・デーヴィン(Reinhold Luetgemeier-Davin)の『平和運動の指導者』には、指導的人物像を通じて平和運動の歴史が記録されています。約150枚の素晴らしい石版画が、水彩画、本版画、写真と共にしばしば本のページ全面に再現されています。



現代の肖像画家によって平和運動の歴史がこれほど視覚的に表現されることはまれなことです。ドイツ平和・紛争の歴史的研究協会の『平和と戦争：歴史的平和研究への貢献』第22巻は見事で、2016年にエッセンのクラルテキスト(Klartext)社から出版されました。

詳細は、[ここをクリックして下さい。](#)
[here](#) 4月にエミル・スタンプの作品が、ロシアのカリニングラドにあるドイツ・ロシアの家で公開されました。その芸術家は当時長年そこに住みましたが、当時はまだ（ドイツにおける）ケーニヒスベルクと呼ばれていました。スタンプの作品の展示は、[ここで見る](#)ことができます。[here.](#)



1930年エミル・スタンプの自画像

第一次世界大戦の国際平和運動で最も有名な指導者は、恐らくベルタ・フォン・ズットナーでしょう。彼女のノーベル平和賞受賞百周年（2005年）を記念して、ウィーンの中心部で彼女が住み1914年に亡くなった建物の入り口に、2008年に彼女のプロフィールのある記念銘板の除幕式が遅ればせながら行われました。彫刻はマルガレーテ・ルッツ(1918-2012)によってなされました。彼女は子どもの頃、長年ジークムント・フロイトの患者でした。二人の出会いの重要性は、ジョナサン・サリバンとミキ・ラーマニによって編集されている『精神分析の視点』(2016年

13巻3号)の論文に詳しく書かれています。その後書きの「マルガレーテ・ルッツの発見」の最初に、ベルタ・フォン・ズットナーの記念銘板の前で撮影された彼女の写真があります。（エルフリーデ・ホクヘル撮影）



グレーテとベルタ(2008)
 エルフリーデ・ホチェルの写真



Peace Review (vol. 28, no. 3)という学術誌の2016年7-9月号は、「核兵器のない世界への道」と題したシンポジウムに多くのページを費やしています。核時代平和財団（カリフォルニア州サンタバーバラ）代表のデイヴィッド・クリーガーにより編集され、10人が論文を投稿しています。その中にはリチ

ヤード・フォークの「オバマ大統領の広島訪問」やピーター・ヴァン・デン・デュンゲンの「反核博物館を通した核兵器廃絶」という論文があります。後者の論文のPDF版を希望する方は、著者にご連絡下さい。

[author.](#)



ベルファストにおけるINMP 第9回国際平和博物館会議

2017年4月10-13日に北アイルランドのベルファストで開催される第9回国際平和博物館会議の準備が、着々と行われています。世界中の博物館や個人から、報告の原稿、パネル、ポスターセッションの申請が約百件ありました。会議のプログラムには、「平和のための生きた博物館としての都市」というテーマに関連した優れた報告が含まれています。このテーマは、分裂し混乱した都市から平和構築の模範となっているベルファスト（会議の主催都市）の社会的政治的転換の良い例となっています。INMPの委員や海外の参加者は、平和、社会的癒し、そして和解を積極的に推進することを、ベルファストの学者、草の根の組織、そして平和構築者から学び、また彼らとネットワークを築くことができるでしょう。

もうひとつ重要なことは、INMP25周年を回顧してお祝いし、ちょうど29

年前の4月10日に歴史的ベルファスト合意（聖金曜日協定）が署名されたストーモント国会議事堂で開催される開会式です。会議前のベルファスト市の旅と、会議後の北アイルランドのフィールド・ツアーで、さらに紛争解決と平和構築の素晴らしい歴史を学ぶことになるでしょう。

会議での報告が認められた参加者は、2017年2月15日までに登録をして下さい。他の参加者は、空きがある限り3月1日までに登録できます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

[this web address.](#)

INMPは、タイタニック博物館が、2016年世界の第一流の観光名所賞を受賞したことに對して、ベルファスト市、主催者のVisit Belfast、会議の組織者、Bespoke Northern Ireland、そして博物館に対してお祝いの言葉を送ります。12月3日マルディヴェスで世界旅行賞の儀式でその栄誉が与えられました。詳細は、ウェブサイトで知ることができます。[here.](#) このことで会議の多くの参加者は、かつて世界の主要な造船都市であり、今は平和構築のやり方を知っている都市として有名なベルファストにある見ごたえのある博物館をますます訪問したくなるでしょう。



ベルファストのタイタニック博物館

被団協結成60周年記念式典に INMPが祝辞を送る

日本被団協は10月12日に東京で結成60周年記念式典を開きました。その際INMP総括コーディネーターのピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士が記念式典に祝辞を送り、安齋育郎教授が紹介しました。デュンゲン博士はメッセージのなかで「広島と長崎の被爆者と被団協が60年以上もの間素晴らしい活動をしているのに、なぜノーベル平和賞が授賞されないのか理解に苦しんでいます。平和のための博物館国際ネットワーク(INMP)は、被爆者の核兵器廃絶のメッセージを広めることに努力しています」と述べています。写真のようにNHKは深夜のニュースでその記念式典を放送しました。



NHKニュースで報道される被団協の祝賀会。
中央第一列で黙祷を捧げる安齋教授

第23回日本平和博物館会議の 定例会議開催される

第23回日本平和博物館会議が2016年11月10～11日、立命館大学国際平和ミュージアムで安齋育郎教授の議長のもとで開催されました。この日本平和博物館会議は、広島平和記念資料館

や長崎原爆資料館を含め比較的影響力のある10館の平和博物館からなっています。これらの10館の博物館には、毎年約400万人の訪問者があります。



第23回日本平和博物館会議の会合

会議では、いわゆる「ダークツーリズム」の問題を含め、4館から5つの協議題が提起され、意見を交流する重要な機会となりました。「ダークツーリズム」の概念に関しては、肯定的な面と好ましくない面が討議されました。また、神奈川県立地球市民かながわプラザからは、日本平和博物館会議の加盟館に関する情報が入手できるコーナーを設置する可能性について報告がありました。会議に先立って、各館は、平和博物館の管理・運営に関する19項目のアンケートの結果に回答を寄せましたが、それらは会議担当館である国際平和ミュージアムの手で取りまとめられ、会議当日に配布されました。

その後北海道大学の湯浅万紀子教授による「博物館体験の長期記憶を探る―来館者調査の意義と課題」と題した基調講演とワークショップを行いました。参加者は龍谷大学立龍谷ミュージアムを訪問する機会がありました。今年の日本平和博物館会議も、お互いの館をよりよく知り合い、協力をしていくための素晴らしい機会となりました。



ワークショップで基調報告をする
湯浅万紀子教授（左）



編集ノート

編集委員メンバーは安齋育郎、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、ロバート・コワルチェック、山根和代です。翻訳は、山根和代が担当しました。この通信の発行は年4回に増え、翻訳の負担が増えたため、逐語的な翻訳ではなく、なるべく要約にします。よろしくお願い致します。（今号は英語版も日本語版も16頁で、同じです）

INMPの会員そしてニューズレターの読者のみなさん、随時ニュースなどの投稿をお願いします。原稿は随時、英語で500単語以内、写真は1-3枚。あなたの名前と所属を書いて、news@inmp.netに送付してください。英語で書くことに困難がある場合には、INMP日本事務局（安齋科学・平和事務所、電話：075-741-7267〈月水金午後〉、FAX：075-741-7282）にご相談下さい。



INMP 通信次号 (No.18) は、
2017年3月に発行の予定です。

次号は「INMP 創設 25 周年記念号 **特別号**」を予定し、次のような内容を考えています。

- ・ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士の 25 周年記念メッセージ
- ・過去と現在の理事や事務局員のメッセージ
- ・友好関係にある団体からの祝辞
- ・過去の国際会議を含めた INMP の歴史
- ・INMP の出版物
- ・INMP 定款やロゴ
- ・その他

次号は特別号のため企画原稿で編集されますが、年4回の通常号については皆さんの投稿をお待ちします。次のメール・アドレスに送信して下さい。

news@museumsforpeace.org.

その際お名前と団体をお知らせ下さい。